

全国高等学校PTA連合会・小社合同調査
第4回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」結果より

不安社会の保護者に どう向き合うか

社団法人全国高等学校PTA連合会と小社による合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」は2009年実施で第4回となった。最新結果にはこの時代の不安感が色濃く映し出されている。大学にとってきわめて重要な広報対象であり、入学後は大学の直接のサービス対象となる「進学希望高校生の保護者」。彼らはこの「不安社会」にあって、子供の進路選択に何を考え、どう行動しているだろうか。そして大学は彼らに何を伝えていくのが有効だろうか。

リクルート「キャリアガイダンス」編集長 角田浩子

【調査概要】

- 調査実施者 社団法人全国高等学校PTA連合会／株式会社リクルート
- 調査対象 全国の高校2年生とその保護者（全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校27校第2学年2クラス分の高校生と保護者）
- 調査期間 2009年9月28日～10月30日
- 調査方法 学校通しの質問紙による自記式調査
 - ①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
 - ②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
 - ③学級担任が高校生分と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数 高校生1953人※全問無回答5人を除く
保護者1495人※全問無回答11人を除く

【回答者プロフィール】

- 高校生
 - 性別：男子55.0% 女子42.3% 無回答2.7%
 - 高校タイプ：普通科61.5% 専門学科32.9% 総合学科5.6%
 - 地域分布：北海道10.7% 山形県10.8% 埼玉県12.0% 東京都10.8% 石川県11.1% 三重県11.3% 京都府11.2% 愛媛県10.3% 鹿児島県11.8%
 - 高校卒業後の希望進路：大学・短大進学55.8% 専門学校進学15.0% 就職25.5% フリーター0.4% 留学0.3% その他1.1%（無回答2.0%）
- 保護者
 - 続柄：父親12.9% 母親83.8% その他0.9% 無回答2.4%
 - 地域分布：北海道7.1% 山形県12.3% 埼玉県13.0% 東京都6.0% 石川県13.1% 三重県11.2% 京都府12.2% 愛媛県11.6% 鹿児島県13.3%

※第2回調査(2005年)は、2005年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施(有効回答:高校生2478・保護者2181)
第3回調査(2007年)は、2007年10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施(有効回答:高校生1802・保護者1541)

※グラフ内の数値は小数点2位以下を四捨五入
本文中の数値はグラフ内の数値の小数点1位以下を四捨五入して使用

※フリーコメント末尾のカッコ内の内容は下記のとおり
高校生コメント→(都道府県・性別・希望進路)
保護者コメント→(都道府県・続柄、子どもの性別)

「話していてもアドバイスは難しい」現代の親

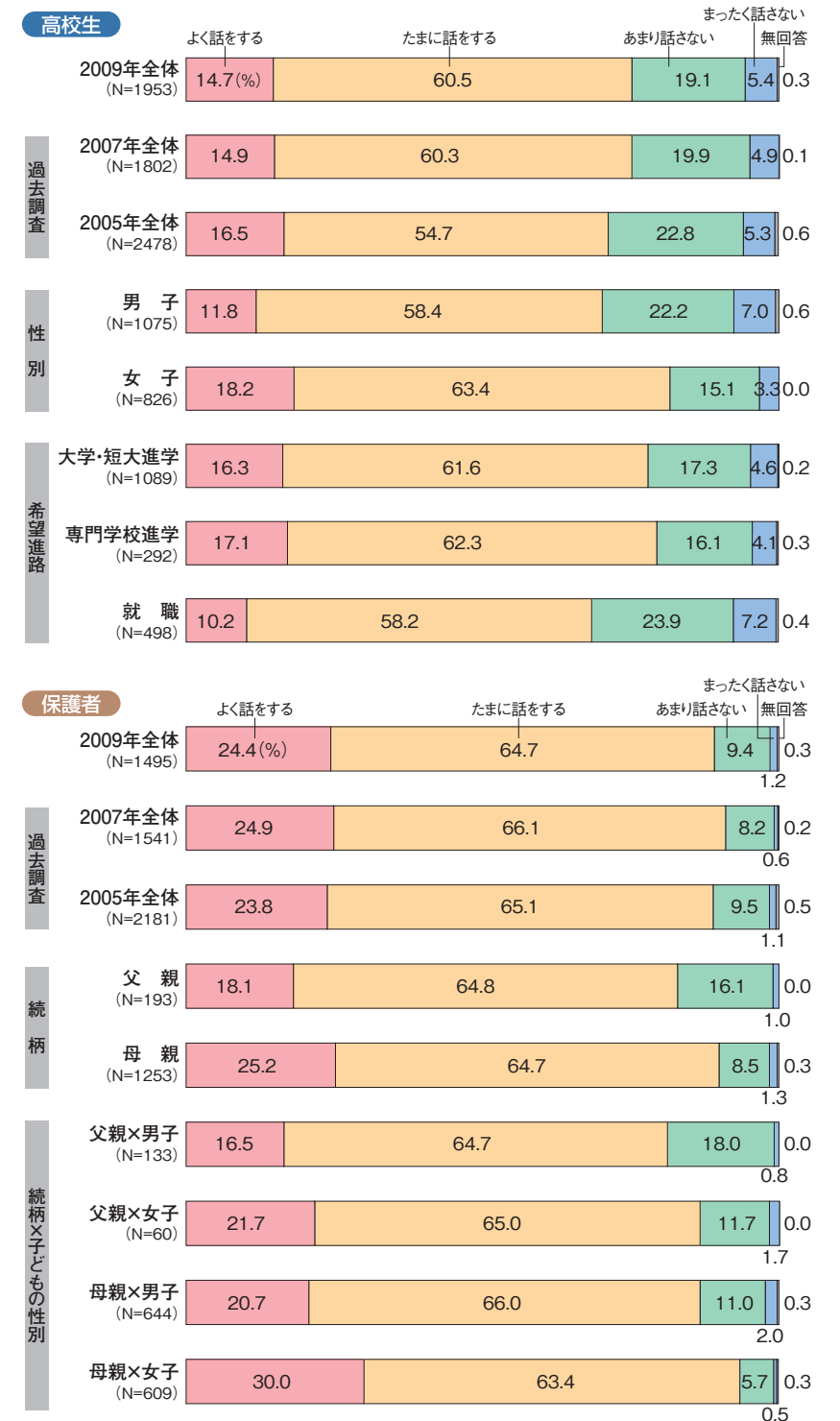
理由は「社会の予測がつかないから」

自信のない保護者たち

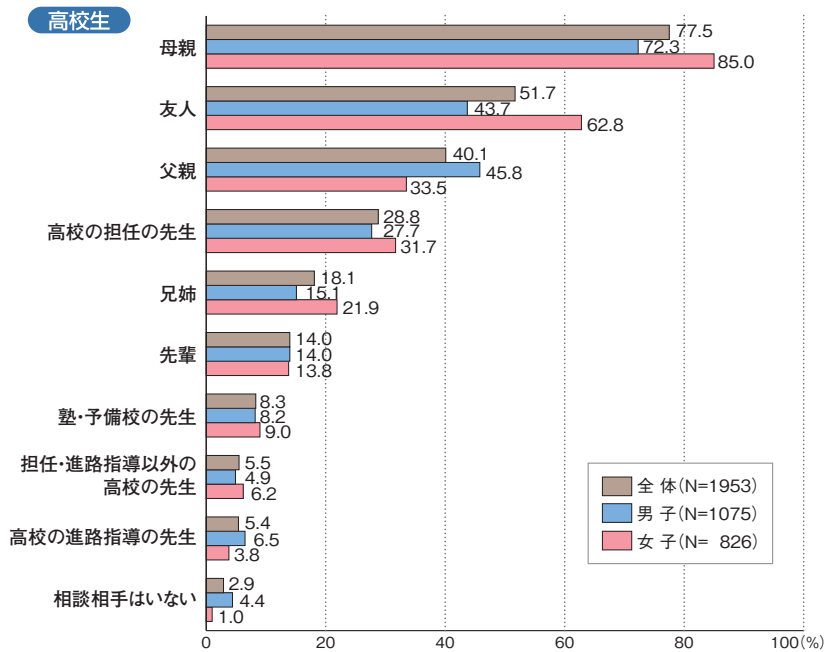
高卒後の進路について、高校2年生が保護者とどれくらい話しているか聞いたところ、高校生の回答は「よく話をする」が14.7%で、「たまに話をする」を合わせると75.2%（図表1）。一方、保護者の回答は「よく話をする」が24.4%、「たまに話をする」を含めると89.1%で、高校生の回答より多い。どちらも前回の調査結果と比べて大きな変動は見られない。男女別では女子のほうが「話をする」が多く、【希望進路】別では専門学校希望者が最も「話をする」が多い。また、父親より母親に「話をする」が多く、母親と娘の組合せは93.4%に及ぶ。父親と息子は最も話していないが、それでも81.2%に達しており、進路に関する親子の会話はおおむね活発といえるだろう。

次に進路を考える際に誰と相談しているかを高校生に質問したところ、最も多かったのは「母親」で、それに「友人」「父親」が続いた（図表2）。男女とも最多は「母親」だが、男子は「父親」が「友人」を上回って2番めに多い。その理由をたずねると、「母親」に対しては「話をする時間が長い」「自分をわかってくれている」など身近さを言う人が多く、「父親」に対しては「社会のことについて詳しい」「意見をしっかり言ってくれる」など知識や経験への信頼が寄せられた。

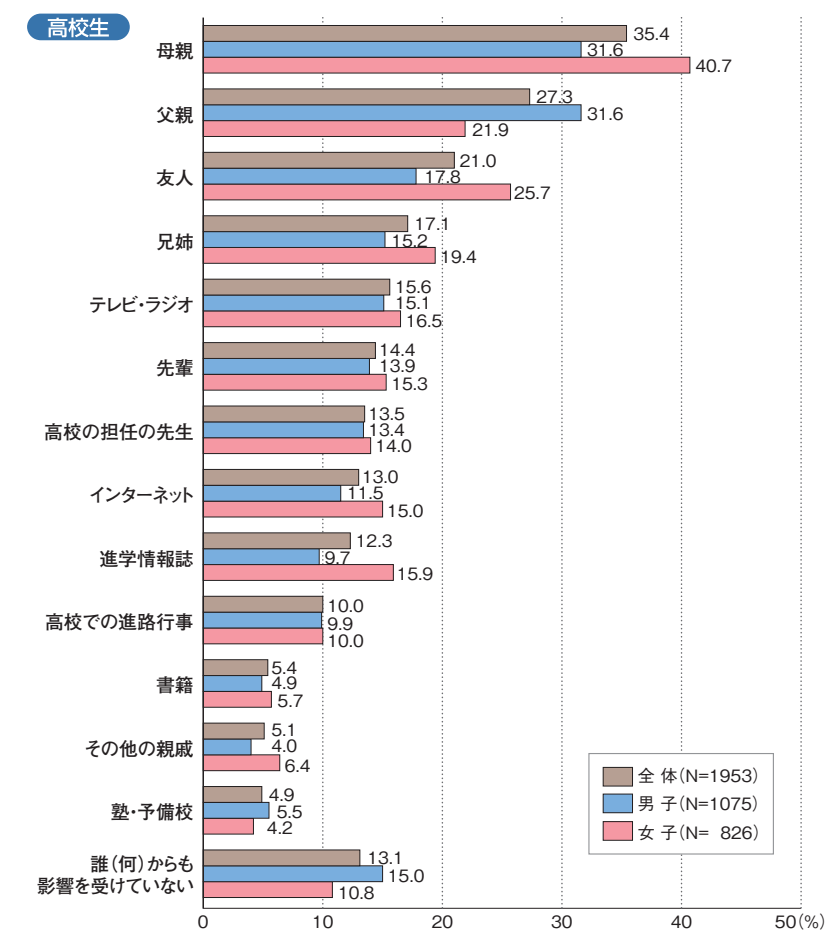
図表1 進路について高校生と保護者は話しているか(全体/単一回答)



図表2 高校生は進路について誰と相談しているか(全体/複数回答)



図表3 高校生は進路について誰(何)から影響を受けているか(全体/複数回答)



進路を考えるうえで影響を受けている人・ものについての質問でも、やはり「母親」が最多で、それに「父親」「友人」が続く(図表3)。ただし男子は「父親」が「母親」と同率トップだ。影響を受ける理由を見ると、「一番相談しているから」という直接的なかかわりのほか、「働いている姿を見て尊敬した」など態度や行動が影響することもあるとわかる。

高校生が進路を考える際に、親とのコミュニケーションはかなり良好であること、保護者は高校生にとって相談相手であり、影響を与える重要な人物であることは間違いない。

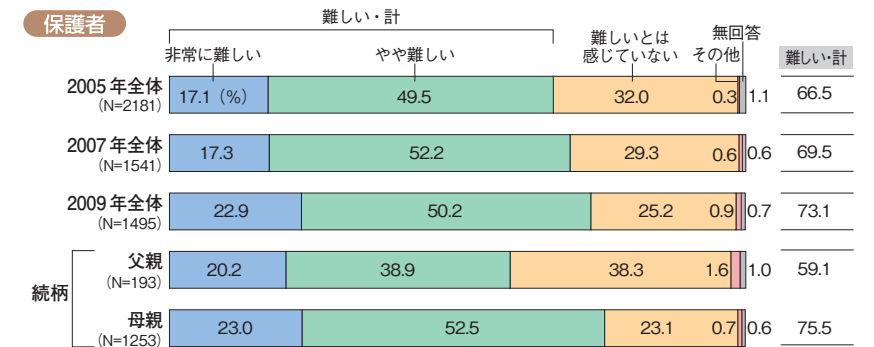
ところが、保護者本人は子どもの進路選択についてアドバイスすることを、22.9%が「非常に難しい」と回答(図表4)。「やや難しい」と合わせると73.1%で、2005年以降、増加を続けている(66.5%→69.5%→73.1%)。特に母親に「難しい」の多さが目立つ。

また、難しいと感じる要因をたずねると、最多は「社会がどのように変わっていくか予測がつかない」で2007年の52.1%から62.3%へと10ポイント以上増加し、突出している。それに「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らない」(46.7%→43.2%)、「経済的な理由で選択肢を狭めざるを得ない」(28.5%→31.7%)が続いた(図表5)。順位は前回と同じだが、今回は「社会がどのように変わっていくか」の増加が大きく、ほかの項目との差が開いた。父親は「子どもが何を考えているかよくわからない」「子どもがア

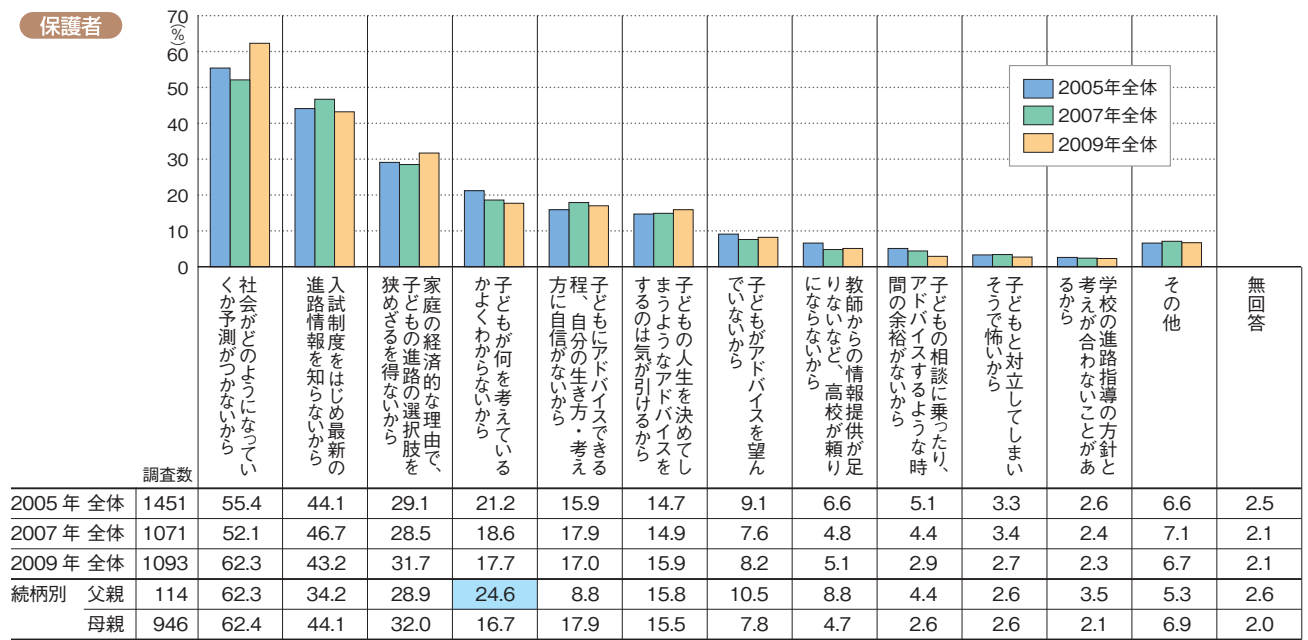
ドバイスを望んでいない」など、親子関係の問題が母親に比べて多め。母親は「最新の進路情報を知らない」「自分の生き方・考え方に自信がない」などが比較的多かった。

高校生にとって進路選択のステイクホルダーである保護者自身が、不安で自信がない状態にあることを示しているのではないだろうか。

図表4 子どもの進路選択についてアドバイスを難しいと感じるか(全体/単一回答)



図表5 子どもの進路選択についてアドバイスが難しいと感じる要因は何か(難しいと感じる/複数回答)



100.0 「2009年全体」より5ポイント以上高い ※「2009年全体」の降順のソート

子どもの気持ちを左右する親子の会話の量と質

進路を考える時「不安になる」が半数

「楽しい」高校生は「将来の夢」を話している

一方高校生の「自信」はどうだろう。これからいろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけそうかと高校生に質問し、自己に対する信頼感を見た(図表6)。すると、「そう思う」

は14.4%で、「ややそう思う」との合計は67.9%。【希望進路】別に見ると、「そう思う」と回答したのは専門学校希望者が最も多い。【進路について話す頻度】別では、保護者と話す層ほど「そう思う」が多くなっている。

また、高校生に進路を考える時の気持ちを聞いたところ、最も多かつ

たのは「自分がどうなってしまうのか不安」で約半数が回答(図表7)。次が「自分の可能性が広がるようで楽しい」の25.9%だ。男女別では、女子に「楽しい」が比較的多い。【進路について話す頻度】別では、話す層ほど「楽しい」が多くなっている。

親との会話の量が、高校生がこれ

第4回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」結果より

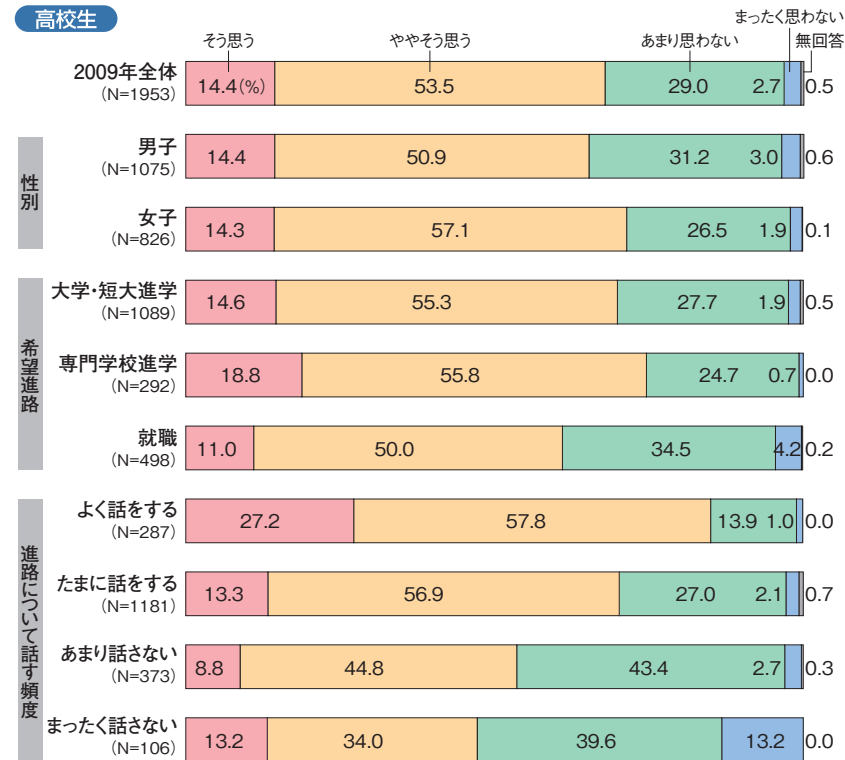
から自分の進路を歩んでいけそうという気持ち、自分の可能性が広がるようで楽しい、という将来への前向きな気持ちを醸成することを左右していることがわかる。

ところが親とよく話している層も「自分がどうなるのか不安」のほうが実は多い。同程度保護者と話していても、子どもが進路を考える際に「不安」と「楽しい」という気持ちに分かれていく理由は何なのだろうか。

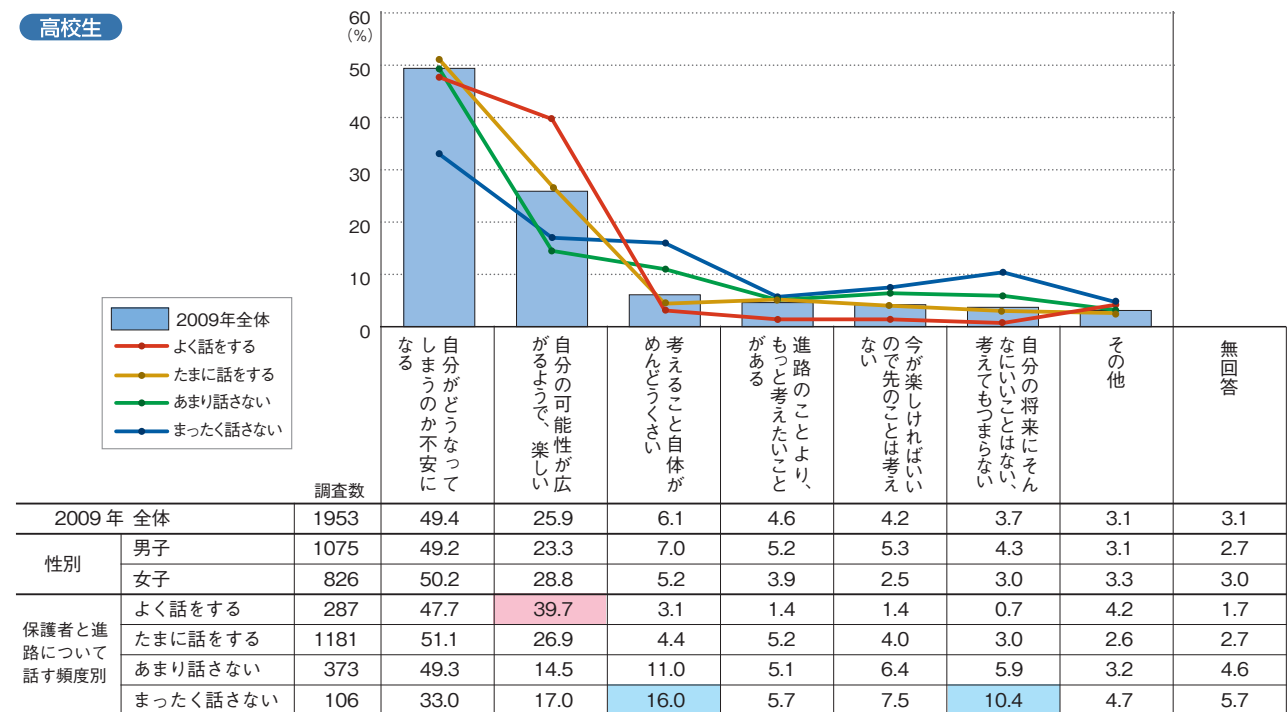
そこで、「進路を考える時の気持ち」別に「進路について保護者と話す内容」に着目したのが図表8だ。

「楽しい」と回答した高校生たちは、「高校卒業後の具体的な進路」「将来どんな職業につきたいか」「将来の自分の夢」「将来どんな生活をしたか」「将来どんな生き方をしたいか」「保護者の現在の仕事の話」「保護者

図表6 これからいろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけそうか(全体/単一回答)



図表7 進路を考える時、高校生はどんな気持ちになるか (全体/単一回答)



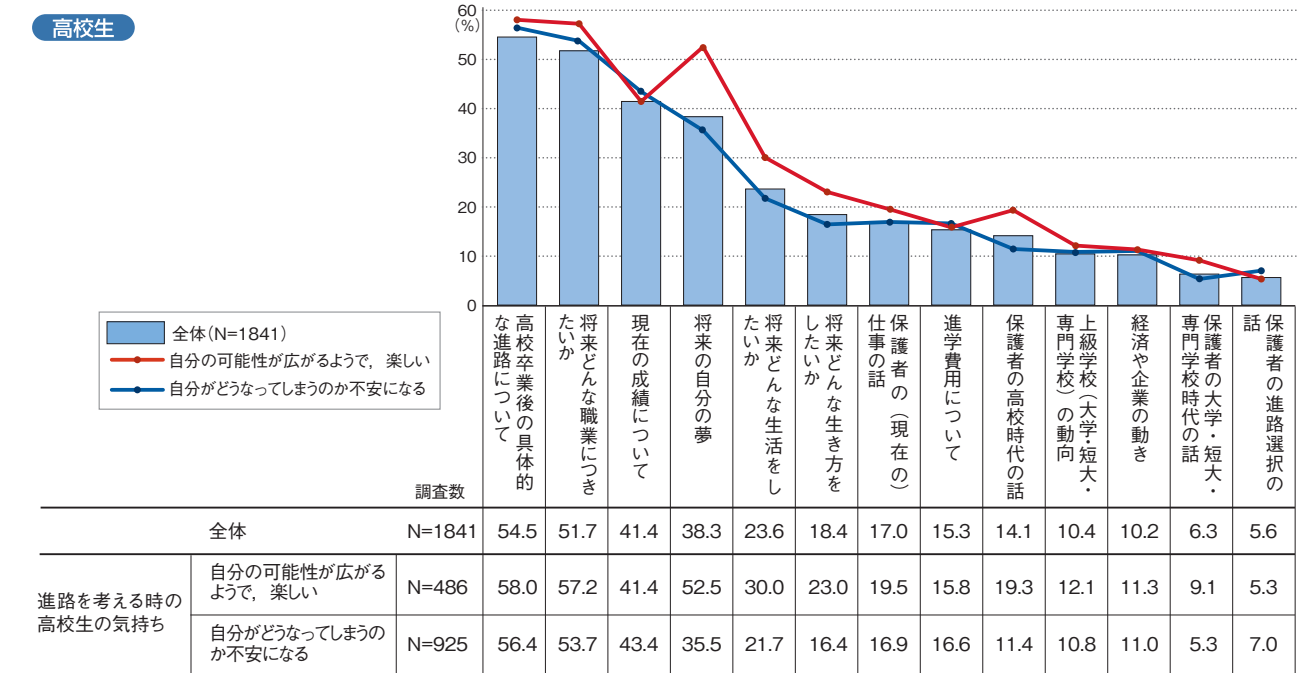
100.0 「2009年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2009年全体」より5ポイント以上高い ※「2009年全体」の降順のソート

の高校時代の話」「上級学校の動向」「経済や企業の動き」「保護者の大学・短大・専門学校時代の話」など多くの項目で全項目中トップだった。とくに突出しているのは「将来の自分の

夢」だ。「不安」と回答した高校生に多かったのは「現在の成績」と「進学費用」などだが、全体とそれほど大きな差はない。まずは子どもと話すこと、そして

彼らの「将来の夢」をはじめとする将来のさまざまな話題を話すこと、そして保護者自身についても話すことが、高校生の将来へのポジティブな進路意識育成のポイントのようだ。

図表8 高校生の気持ち別に見た「進路について保護者と話す内容」(進路について保護者と話す人/複数回答)



※図表7の6項目中、「楽しい」と「不安」を抽出して比較したもの。

「本人の希望達成と安定」が願い

保護者がついてほしい職業トップは「公務員」

「子どもが希望するなら何でも」

保護者に対して子どもについてほしい職業があるかを問うと、「ある」は17.8%で、「子どもが希望する職業なら何でもよい」が73.2%(図表9)。2005年より「子どもが希望する職業なら何でもよい」割合が増加し(68.2%→70.9%→73.2%), ついてほしい職業が「ある」割合は減少している(23.0%→21.0%→17.8%)。

子どもについてほしい職業の一位

は「公務員」。次いで「看護師」「教師」「薬剤師」(図表10)。とくにほしい職業がある人のうち男子の親は半数以上が公務員になってほしいと思っている。また子どもの進路として大学・短大への進学を希望している保護者がついてほしいと考えている職業の最多も「公務員」。「教師」「看護師」「薬剤師」「弁護士・法律関連」「保育士・幼稚園教諭」など国家資格が必要な職業が上位を占めている。その職業を希望する理由を書いて

もらったところ、「安定」というキーワードがならぶほか、ここでも子どもの希望なのでかなえてあげたいという記述が目立った。

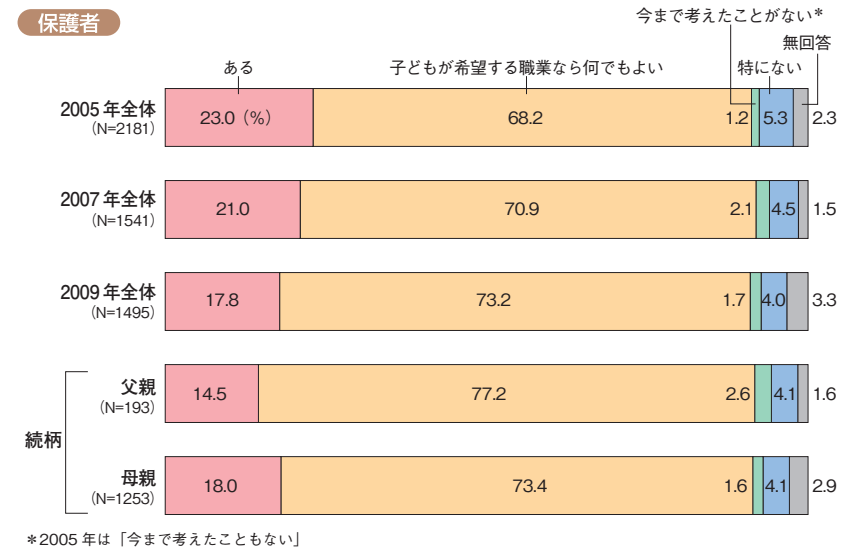
次に子どもの進学を希望する保護者に、進学に関する17の考え方についてそれぞれどう思うかを聞いた(図表11)。「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計が多い順に見ると、「本人の個性や能力を生かせる学校に進学してほしい」が94.7%、「本人のやりたいことができる学校に進学してほ

第4回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」結果より

しい」が93.3%で、この2項目が突出して高くなっている。

進学にしても就職にしても子ども自身の希望を何より優先する現代の親の気持ちや、進学先で子どもの個性や能力が生かされること、そのうえで安定した職業についてほしいと願う保護者の姿が見えてくる。大学側から考えると、まずは高校生の志望先のひとつとなること、保護者に対しては入学後の個別指導や進路支援・就職先の情報が重要であることが、このデータから言えるのではない。

図表9 保護者は子どもについてほしい職業があるか (全体/単一回答)



図表10 保護者は子どもにどんな職業についてほしいか (ついでほしい職業がある人)

全体 (N=266)	%
1 (1) 公務員 (国家・地方)	35.0
2 (2) 看護師	10.9
3 (4) 教師	9.0
4 (3) 薬剤師	4.5
5 (-) 理学療法士・作業療法士	3.0
6 (9) 社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	3.0
7 (12) 弁護士・法律関連	2.6
8 (5) 技術者・研究者	2.6
9 (11) 製造・加工・組立などのモノづくり	2.6
10 (7) 保育士・幼稚園教諭	2.6

男子についてほしい職業 (N=130)	%
1 (1) 公務員 (国家・地方)	51.5
2 (5) 教師	6.2
3 (5) 製造・加工・組立などのモノづくり	4.6
4 (2) 技術者・研究者	3.8
5 (7) 薬剤師	3.8
6 (2) 会社員	3.1
7 (9) 看護師	3.1
8 (-) 理学療法士・作業療法士	3.1
9 (8) 社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	2.3
10 (9) 弁護士・法律関連	1.5
11 (18) 会計士・税理士	1.5
12 (4) 医師・歯科医師・獣医	1.5
13 (12) 建築設計士	1.5
14 (9) 整備士	1.5

女子についてほしい職業 (N=126)	%
1 (1) 公務員 (国家・地方)	19.8
2 (2) 看護師	17.5
3 (4) 教師	12.7
4 (5) 保育士・幼稚園教諭	5.6
5 (3) 薬剤師	4.8
6 (9) 社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	4.0
7 (16) 弁護士・法律関連	3.2
8 (10) フライタアテンダント・グランドスタッフ	3.2
9 (11) 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	3.2
10 (-) 管理栄養士・栄養士	3.2
11 (-) 理学療法士・作業療法士	3.2

※()内は2007年順位、(-)は前回項目なし、以下同

【大学・短大進学希望】	N=149 (%)
1 (1) 公務員 (国家・地方)	31.5
2 (3) 教師	14.8
3 (6) 看護師	8.1
4 (2) 薬剤師	6.7
5 (8) 弁護士・法律関連	4.7
6 (7) 保育士・幼稚園教諭	4.7

※子どもの卒業後の進路として大学・短大のいずれかを希望している保護者

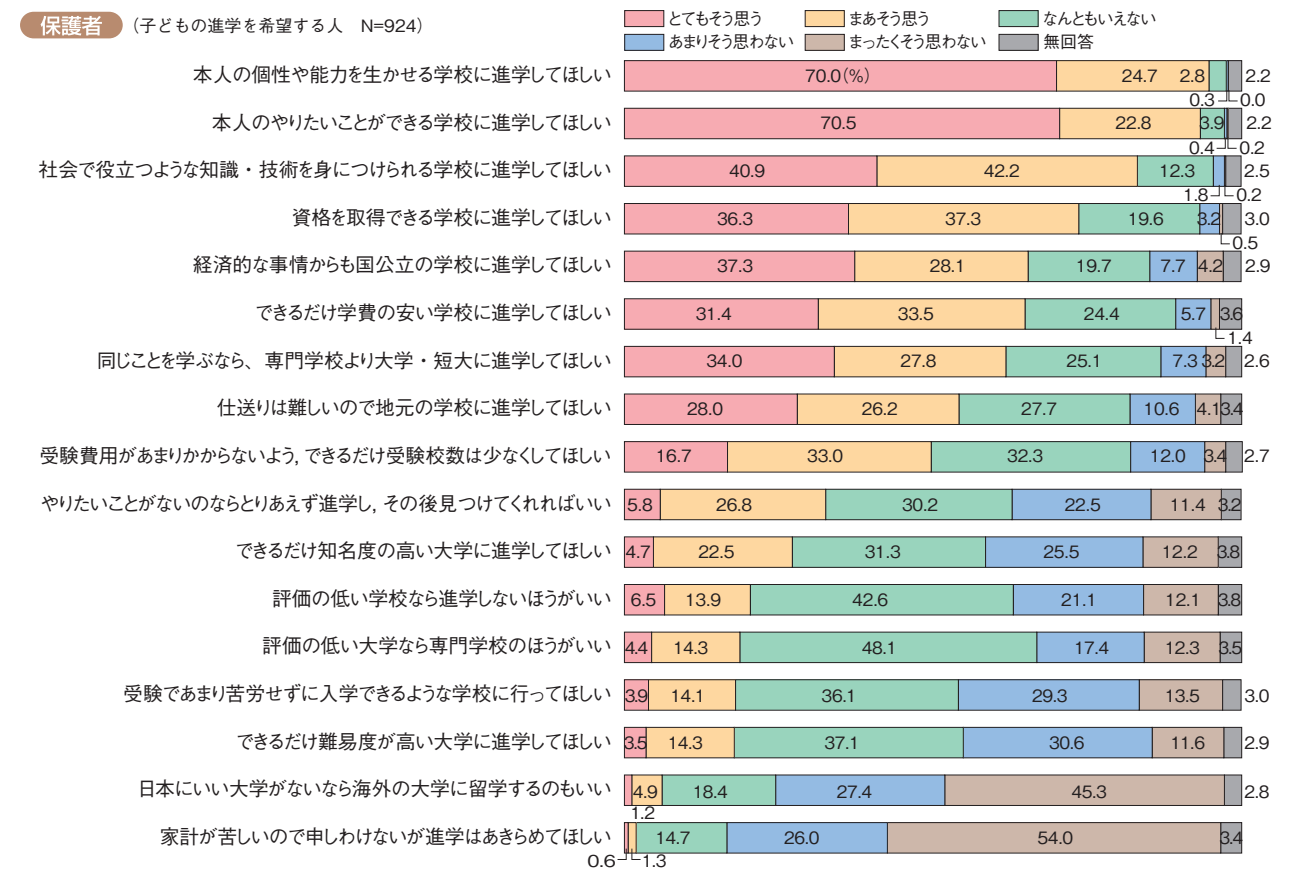
【専門学校進学希望】	N=47 (%)
1 (1) 看護師	29.8
2 (2) 公務員 (国家・地方)	17.0
3 (10) 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	8.5
4 (-) 理学療法士・作業療法士	6.4
5 (3) 事務	4.3
6 (8) 美容師・理容師	4.3

※子どもの卒業後の進路として専門学校を希望している保護者

保護者がその職業についてほしい理由

- 公務員：この不景気のなか、改善される見込みもまだないため、なるべく安定した職業についてほしい (京都・母親、男子)
- 公務員：安定。国がつぶれないかぎり公務員は安定している (三重・母親、男子)
- 公務員：現在の日本で一番安定している職業だと思う。 (京都・母親、女子)
- 公務員：収入が安定している。休みがしっかりしている (三重・母親、男子)
- 公務員：結婚後も無理なく仕事が続けられそうだから (石川・母親、女子)
- 教師：子どもが小学生のときからの夢なので (埼玉・母親、男子)
- 教師：相手のことを考え、人に教えることが好きだと思うから (愛媛・母親、女子)
- 看護師：自立できる。必ず就職できる (埼玉・母親、女子)
- 看護師：大変な仕事だが、家庭に入っても役に立ち、再就職もしやすい (石川・母親、女子)
- 薬剤師：資格があり、就職に有利。収入もよい (愛媛・母親、男子)
- 薬剤師：社会がどのように変わっていくのかわからない状況で、資格は強いと感じるから (埼玉・母親、男子)
- 弁護士・法律関連：社会的な地位があるため (鹿児島・不明)
- 保育士・幼稚園教諭：娘の小さい頃からの夢なので、親としても応援したい (鹿児島・母親、女子)

図表11 保護者は子どもの進学についてどんな価値観をもっているか (進学希望/各単一回答)



高まる進路情報収集意欲

子どもと「一緒に考える」時代に突入

「動かず」「甘い」息子のため

子どもの進路選択行動に保護者自身はどのようにかかわっているか、10の行動例をあげて現時点までの経験と今後の意向を質問した(図表12)。各項目とも「おこなったことがある」「おこなったことはないが、今後おこないたい」の合計はいずれも7割超。「どんな学校があるか調べる」が83%、「どんな学部、学科、コースがあるかを調べる」が82%、「興味をもった学校の入試方法を調べる」が80%と、進路情報収集に関しても行動意欲が高い。父

母別に見ると、全体的に母親のほうが数値は高めだが大きな差はなく、父母とも意欲的なようだ。

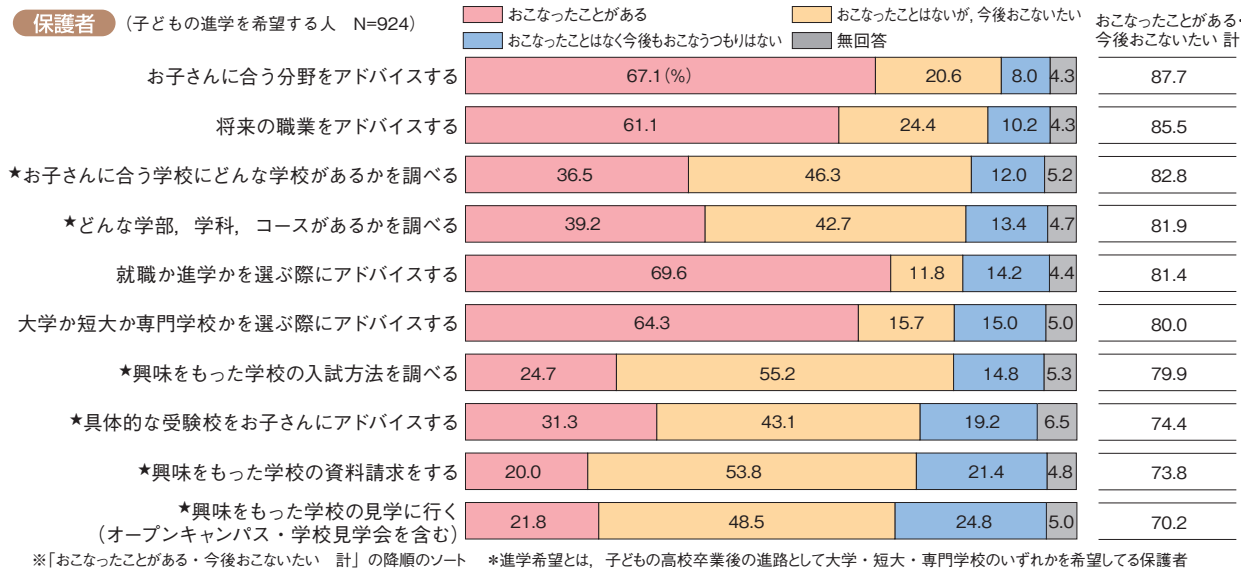
このように保護者が自ら行動する理由をたずねると、最も多かったのは「子どもと一緒に考えたいから」で、次の「具体的情報を知らない」と進路の会話ができないから」とともに半数以上が回答(図表13)。子どもと一緒に考え、話し合うために情報収集する保護者の姿がうかがえる。

これを子どもの男女別に見ると、「子どもと一緒に考えたいから」は女子に多く、「子どもが進路について行

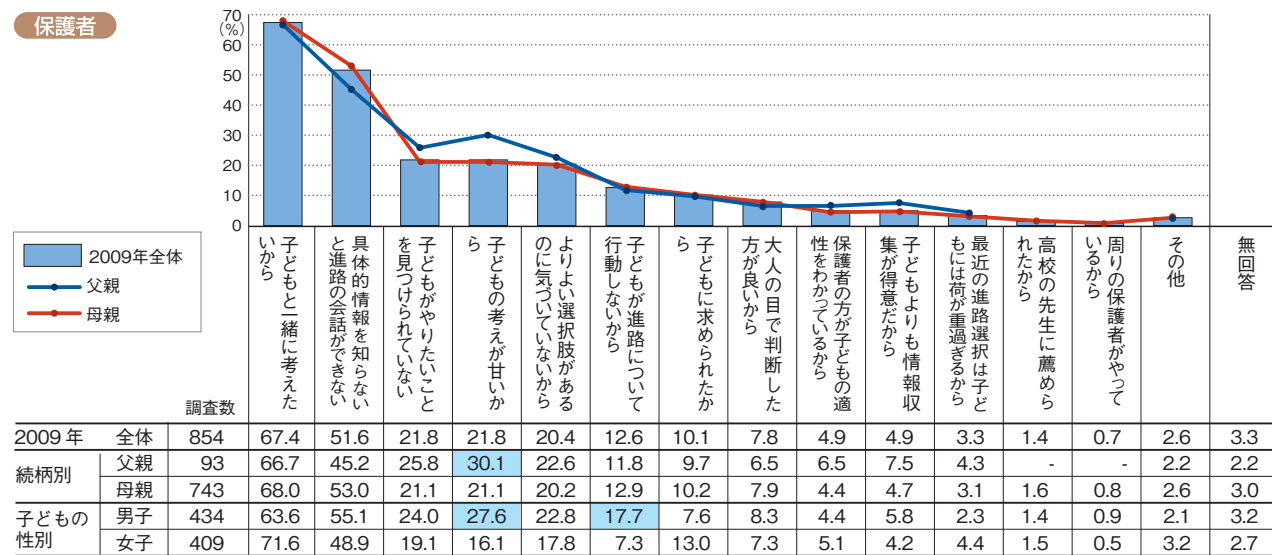
動しないから」「子どもがやりたいことを見つけれられていないから」「具体的な情報を知らない」と進路の会話ができないから」「よりよい選択肢があるのに気がついていないから」「子どもの考えが甘いから」など、子どもの意識や行動をもどかしく思い、みずから調べ手助けしようとするのは男子の親に多いことがわかる。とくに「行動しないから」「考えが甘いから」は男子が女子を10ポイントも上回っている。広報上も男子高校生に対しては保護者への働きかけが有効かもしれない。

第4回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」結果より

図表 12 保護者は子どもの進路選択行動にどのように関わっているか (進学希望*/各単一回答)



図表 13 保護者が具体的に関わる理由 (進学希望・関わったことがある*/複数回答)



子どもより「就職」「学費」を重視

高校生は「校風や雰囲気」

親子別の訴求項目検討を

それでは子どもの進学に際してどんな情報が重要だと思うのか。保護者を選んでもらったところ、「現在の入試

制度の仕組み」「進学費用」「将来の職業との関連」などが上位に並んだ(図表14)。前回から大きな変動はないが、「奨学金の種類と採用条件」(24.8%→29.0%)の増加がやや目立つ。

さらに子どもの進学先を考える時にどのようなことを重視するか、進学を希望する保護者に質問した(図表15)。最も多かったのは「子どもの学びたい学部・学科・コースがある」で

84.2%が回答。「子どもの興味や可能性が上げられること」「就職に有利であること」なども6割を超える。また5位「学費が高くないこと」も半数を超えた。

一方、同様の質問を進学希望の高校生にしたところ、トップは「学びたい学部・学科・コースがある」で保護者と同じだが、2位に「校風や雰囲気

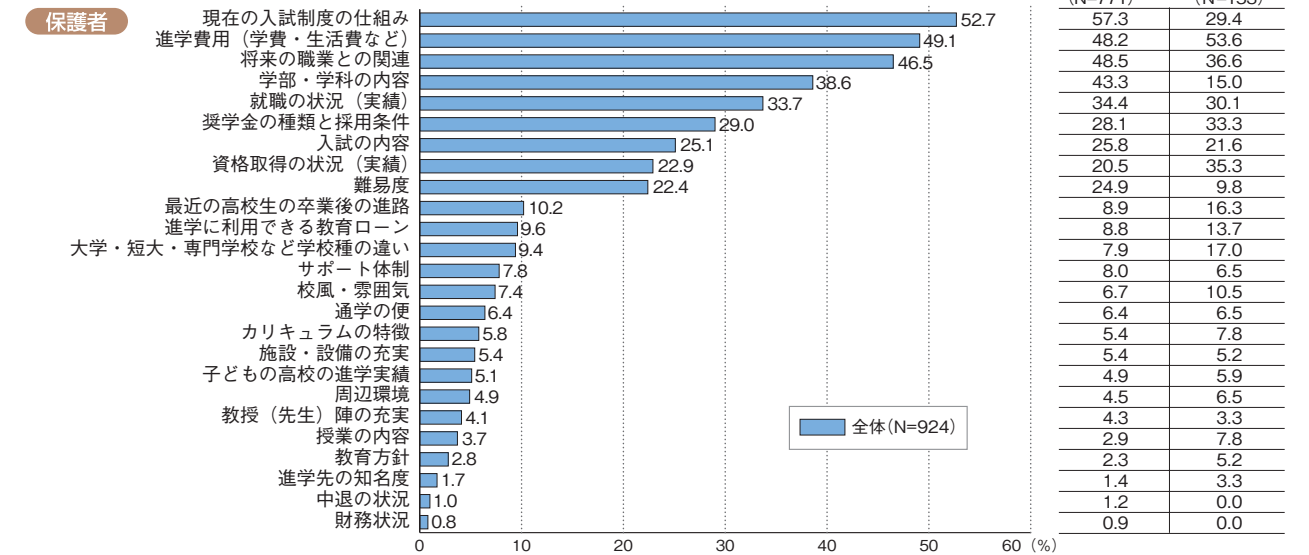
がよい」が上がってくる。

高校生たちが入学後の自分に合った校風や雰囲気を重視するのに対し、保護者は「就職」「学費」と現実的である。

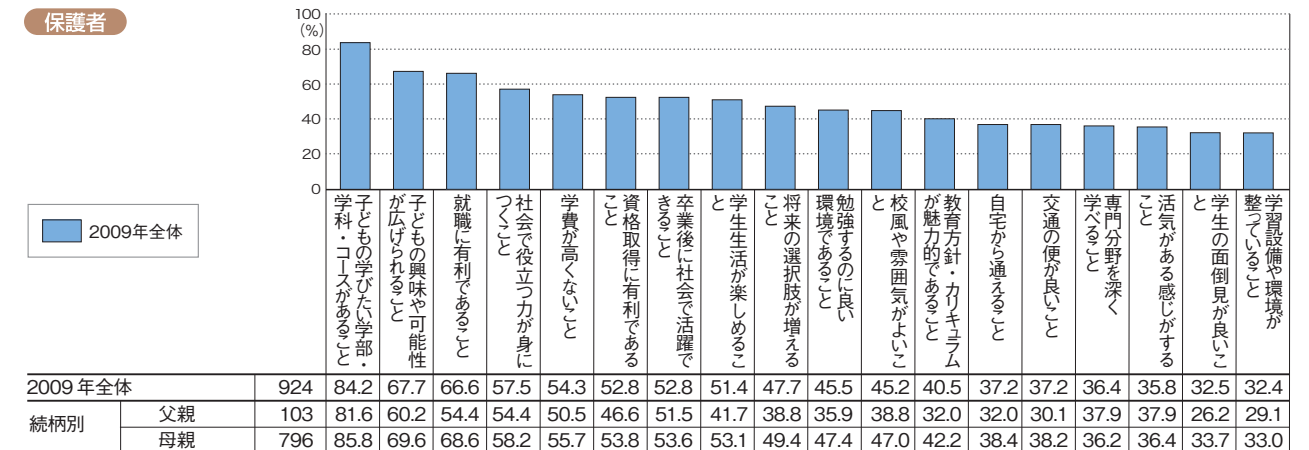
今後、高校生の保護者への入試広報、入学後の在学生の保護者への情報提供が大学経営にとってますます重要になることは間違いない。その

心理状態は不安であり、情報への飢餓感もある。何をどのように伝えていくか、十分な検討と丁寧な実施が必要と言えるだろう。学部・学科の内容はもちろんだが、「そこで本当にわが子を成長させ、社会人として無事送り出してくれるのか。経済的に可能な範囲で」と切実に思っている本気の大人たちが対象なのだから。

図表 14 進学に際してどんな情報が重要か (進学希望/複数回答)



図表 15 保護者は子どもの進学に関してどんなことを重視するか (進学希望/複数回答)



▼参考 「進学センサス 2009」: 高校生の進路先検討時の重視点

進学者 (浪人含) 全体	12153	73.7	45.4	45.1	25.6	20.8	38.0	29.9	35.9	32.1	29.4	50.9	30.5	36.7	24.5	29.9	23.3	12.5	35.3
大学	8481	73.8	44.8	41.7	23.6	19.4	33.9	27.5	36.8	33.0	28.5	50.6	29.2	35.3	22.7	24.0	23.0	12.1	33.9
短大	910	75.3	44.7	49.5	26.3	18.4	51.5	27.7	35.1	29.7	26.3	54.6	30.9	47.5	29.5	28.0	22.4	13.6	33.6
専門学校	1890	70.5	44.6	55.8	32.4	23.0	52.9	36.7	29.6	22.5	26.5	47.9	32.0	40.4	29.8	58.1	21.5	13.9	38.6

※[2009年全体]の降順のソート